

倫 理 学

1 構 成 員

	平成15年3月31日現在
教授	1人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	1人

2 教官の異動状況

森下 直貴（教授）（H14. 11. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成14年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	1編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2編（2編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森下直貴，「産育への欲望」といかに向き合うか－生殖医療と哲学者の役割．中部哲学会年報35：113-127，2003. 3.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 庄司進一，大林雅之，森下直貴，赤林 朗，白浜雅司，卒前医学教育における医療倫理教育マニュアル．医学教育2002，33 (2): 113-119

インパクトファクターの小計 [0.00]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森下直貴，生命と倫理のあいだ．第12回日本学術会議哲学系公開シンポジウム，2002. 12

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森下直貴，「個と全体」の美しくも危うい関係－市野川・石井論争に寄せて（上・中・下）．2002. 7

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 出口 顕，森下直貴（対談），人体の商品化．『資本主義の中の生と死』アソシエ9号（御茶の水書房，2002. 4），1-25.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 赤林 朗, 大林雅之, 森下直貴ほか, ケースブック医療倫理. 医学書院, 2002. 12
2. 近藤 均, 森下直貴ほか(編), 生命倫理事典. 太陽出版, 2002. 12

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成14年度
特許取得数(出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成14年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (万円)
(4) 財団助成金	0件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件 (万円)

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	2件
(3) 学会座長回数	0件	1件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	2件
(6) 一般演題発表数	0件	

(1) 国際会議等開催・参加：

(2) 国内学会の開催・参加

2) シンポジウム発表

1. 中部哲学会. 2002. 10. 5
2. 日本学術会議. 2002. 12. 10

3) 座長をした学会名

1. 日本医学哲学・倫理学会, ワークショップ, 2002. 10. 26

5) 役職についている学会名とその役割

日本医学哲学・倫理学会 理事

日本医学教育学会 医療倫理専門委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成14年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 日本初の生命倫理事典の編集。
2. 日本初の医療倫理ケースブックの完成。
3. 欲望論と健康論の統合および新境地の開拓。
4. 欧米の健康論の翻訳遂行。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道